

2021年(令和3年)
8月7日(土)
第1369号

園芸新聞

発行所
株式会社園芸新聞社
〒180-0001 武蔵野市
吉祥寺北町4-7-13
電話 0422(51)8953
FAX 0422(55)7187
発行人 前田 彰宏
購読料 1ヵ年 5,400円
振替 00130-2-85300

GPEC無事に開催迎える 東京以外で初の展示会

愛知県にて開催 来場者1万6千人

日本施設園芸協会主催の施設園芸・植物工場展2021(GPEC)が7月14日から16日までの3日間、Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)において開催された。「未来につなげるNPON農業」をテーマに129の企業や団体が出展し、新製品や新技術を示した。今回のGPECはコロナウィルスの影響で1年延期されるとともに、オリンピック開催の関係で東海地区での開催となつたが、地元愛知や近隣の三重、静岡などから多くの生産者が来場し、入場者は3日間延べ16,288人であった。普及が期待されているスマート農業や植物工場関連資材など、環境問題、コスト削減、経営力強化などの課題を解決するための最新の機器・技術をはじめ、種苗、育苗システム、選別機などの展示もあった。



成長著しい誠和のブース

日本の施設園芸をリードする企業が出展しており、三菱ケミカルアグリドリム(株)は8年連続展覧が可能なるPオフイルム「スーパーダイヤスター」などの高機能フィルムを展示。東都興業(株)は発売10年を迎えた電動カンキットNシリーズやハウス補強資材などを展



8年展張のスーパーダイヤスターが注目を集めた三菱ケミカルアグリドリム



電動カンキットやハウス補強資材を展示した東都興業

生産方式で展示し、は、中小企業庁の公募内部には、環境制御装置や栽培ユニットなどの各種資材も展示して次世代の大規模施設園芸をまとめて学べる展示が行われた。このほか経営から栽培・環境技術に長けた相談者による生産者相談者コーナーが設けられたほか、政府が取り組んでいる施策についてパネル展示をした。

誠和

公募プロジェクト採択される

このほか主催者展示・政府告知コーナーでは、日本施設園芸協会が推進する日本型大型ハウス(1畝)のモデルハウスを実際の仕様

大手農業資材メーカーの(株)誠和(栃木県下野市・大出浩睦社長)は、中小企業庁の公募プロジェクトである「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金(ものづくり補助金)」ならびに「商業連携支援事業(新連携支援事業)」に採択されたことを発表した。

ものづくり補助金にて「AIを活用したデータ駆動型トマト栽培支援サービスの開発」に取り組み、「新連携支援事業」にて「IoT、クラウド技術を活用した食農連携とSDGs推進による高生産性かつ持続可能なバリエーションの構築」に取り組み、同社は2つのプロジェクトについて、「農業の生産性の向上と環境負荷の低減を両立させ、生産者の所得向上と持続可能な食料システムを構築すべく取り組んでまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます」とアナウンスしている。